

地域再生計画

1. 地域再生計画の名称

もりを活かす住みよい町づくり計画

2. 地域再生計画の作成主体の名称

和歌山県、新宮市、東牟婁郡那智勝浦町、東牟婁郡串本町

3. 地域再生計画の区域

新宮市並びに和歌山県東牟婁郡那智勝浦町の全域並びに串本町の区域の一部（旧古座町）

4. 地域再生計画の目標

新宮市（合併前の新宮市及び熊野川町）、那智勝浦町、串本町は和歌山県の南部に位置し、南西部は熊野灘、北東部は紀伊山地の深い森林に覆われ、その東側を熊野川が流れている。古くから河口を中心に林業、木材産業を中心として栄えており、平成16年には「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録されるなど豊かな自然が数多く残る地域である。

林業が基幹産業である当地域では、山村地域の道路網の整備や水道施設、特用林産物の集出荷施設などの基盤整備や間伐の推進などで活性化を図ってきたが、木材産業の低迷とともに不在村林家の増加、林業経営意欲の減退、さらには近年、高齢化・過疎化が進行（65歳以上の高齢者が28.19%を占めるとともに、過去5年間で人口が3.99%減少）しており、農林業の担い手不足による荒廃森林や耕作放棄地の増加等が大きな課題となっている。

高齢化に伴い、高齢者が安心して暮らせる地域作りが急務となっており、那智勝浦町では町内循環バスを走らせることにより、集落から病院、商店街、JR主要駅、役場等の主要施設間の移動を確保し、新宮市熊野川町（合併前の熊野川町）でも週2回ではあるがデイサービス用のバスを走らせて対応している。しかし、幅員が狭く、線形不良箇所が多い当地域においては、移動に時間がかかるだけでなく、大型車のすれ違いが困難なため、地域の細部まで網羅しきれていない現状である。

さらに当地域は台風の襲来や集中豪雨が多く、管理の届かない山林付近の林道においては、落石やのり面崩壊、路肩欠損等の危険性が高く、非常に危険な状況となっている。

このため、本事業の交付金を活用して地域の道路網ネットワークを効率的に整備す

ることにより、集落間や主要施設までのアクセス時間の短縮及び通行の安全性を図り、農林業の振興、病院などへのアクセス改善、デイサービスによる山村路網の拡大を目指す。さらに、林道を整備することで森林へのアクセスを軽減し、課題となっている荒廃森林の改善等による林業の活性化と森林の持つ公益的機能の強化も図る。

また、近年担い手として「緑の雇用事業」や「籠ふるさと塾」を活用したUJIターナー者が山村に定住してきており、山村地域の活性に大きく寄与している。道路網を整備することにより相互の施設間の交流や、さらなる事業利用者の拡大が期待できる。このように、地域間の交流が活発に行えるようハード面、ソフト面各種事業の連携を図り、「もりを活かす住みよい町づくり」を目指すものである。

(目標1) 林業の振興と山村地域の活性化

(間伐実施面積の10%増加)

(緑の雇用事業によるIターナー者の定住支援 30世帯の維持)

(目標2) 道路整備による渋滞ポイントの減少

(1箇所→0箇所)

(目標3) 道路整備による拠点施設へのアクセス改善

(那智勝浦町から新宮市立医療センターまで8分短縮)

(新宮市街からは新宮市立医療センターまで4分短縮)

(篠尾地区から新宮市熊野川行政局(合併前の熊野川町役場)まで5分短縮)

(バスについての目標 籠~町立病院~那智勝浦町役場 5分短縮)

(目標4) 通行の安全の確保

・すれ違い困難な箇所の改善

6箇所→3箇所

・待避所の確保

12箇所

・異常気象時の危険な箇所の改善

(20箇所→7箇所)

・拡大崩壊の未然防止

(1箇所→0箇所)

5. 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

新宮市熊野川町（合併前の熊野川町）と那智勝浦町を結ぶ「林道田長谷線」の改良事業、新宮市熊野川町（合併前の熊野川町）と田辺市を結ぶ「林道ホイホイ坂線」の改良事業を行うことにより、地域間の時間短縮と広域的な森林整備の推進が図れる。那智勝浦町の小阪地区と口色川地区を結ぶ「林道小阪大野線」、西中野川地区の「林道西中野川線」の改良事業を行うことにより、県道那智勝浦古座川線等へのアクセスがよりスムーズになり広域的な森林整備が図られる。また、小阪地区と那智山を結び、世界遺産に登録され年々利用者が増加している熊野古道のアクセス道路として利用される「林道大戸妙法線」の改良事業を行うことにより、通行車両の安全確保と拡大崩壊の未然防止等を図る。串本町佐部地区の「林道上野山佐部線」の改良事業により、上野山地区と佐部地区の集落間道路として安全性の向上、国道42号線の緊急時の迂回路としても利用できる。

林道の改良により、現地への交通の便の改善により森林施業の効率化と間伐等の森林の整備・保全を効果的に進め、通勤時間の短縮により労働環境の改善も期待できる。

また、新宮市熊野川町篠尾地区（合併前の熊野川町篠尾地区）は合併前の熊野川町内唯一のバス路線であるが道路が狭く長きにわたり市道西敷屋篠尾線の改良を行ってきたが、残り600mで全線が改良され地区住民の医療機関、町中心部等への利便性が確保できる。

現在、事業中である那智勝浦道路は新宮市と那智勝浦町を結ぶバイパスで、交通渋滞の緩和、産業、観光の活性化・医療（救急搬送時間の短縮）などを担うことが期待されている。「井関後市梨線」はこのバイパスから新宮市立医療センター周辺への取り付け道路であり、病院へのアクセスの確保を図るとともに救急患者搬送時間の短縮に努める。

市町道の認定日	昭和28年4月 1日（西敷屋篠尾線）
紀南地域森林計画	平成16年計画登載（西中野川線）
	平成16年計画登載（小阪大野線）
	平成16年計画登載（上野山佐部線）
	平成16年計画登載（田長谷線）
	平成16年計画登載（ホイホイ坂線）
	平成19年計画登載（大戸妙法線）

(5-2) 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金事業を活用する事業

[施設の種類（事業区域）、実施主体]

- ・市町道（新宮市（合併前の新宮市及び熊野川町） 新宮市（合併前の新宮市及び熊野川町）
- ・林道（新宮市（合併前の熊野川町）、那智勝浦町、串本町） 新宮市（合併前の熊野川町）、那智勝浦町、串本町

[事業期間]

- ・市町道（平成17年～平成21年度）、林道（平成17年～平成21年度）

[整備量および事業費]

- ・市町道 1.5 km、林道 24.078 km

総事業費 1,429,110千円

市町道 700,000千円（内交付金 350,000千円）

林道 729,110千円（内交付金 333,321千円）

（5-3）その他の事業

- 1, 緑の雇用事業・・・森林の持つ公益的機能に着目し、環境保全事業を展開することにより雇用を創出し都市からの人口流動を進め定住を促し、地域の活性化を図る。
- 2, 籠ふるさと塾・・・有機農業をめざして新規農村居住者の受け入れ施設で、滞在施設と実習体験が受けられる。当施設で体験後入植希望者を受け入れ地域の活性化を図る。
- 3, バスネットワーク・・・路線バスの走っていない地域の循環バスやデイサービスバスで高齢者等の移動手段の確保。

上記事業は道路整備により、さらなる利活用が可能となる。

6. 計画期間

平成17年度～21年度

7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を行い状況を把握・公表するとともに関係行政機関が集まり、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行うこととする。

8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項
該当なし

(添付資料一覧)

- (1) 地域再生計画の区域に含まれる行政区域を表示した図面
- (2) 地域再生計画の工程表
- (3) 工程表説明
- (4) 道整備交付金による施設整備の整備箇所図
- (5) 地域再生計画の全体像を示すイメージ図